

保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (6)

－ 2年間のアンケート調査を通して－

A Study on the Use of Children's Songs in Pre-school Teachers' Training(6)
－ Based on the Students' Replies to Questionnaires over Two Years －

多保田 治 江

Abstract

Based on the second year students' replies to questionnaires in 2005 and 2006, I researched what is required in order to train junior college students to be pre-school teachers who can enjoy using music while teaching children. The answer is that our curriculum should incorporate children's music course guidance from the outset and should teach students how to prepare music for use in their classes. "Own work reflection" is important for the process of continued self improvement as a teacher. We should encourage students to use music in their classroom as much as possible.

はじめに

現代の子どもたちは、日常生活において多種多様な音楽環境の中に生きている。保育の場において子どもたちが音楽を表現することの楽しさを感じて生き生きと活動できるような環境を設定するのは、保育者である。音楽の楽しさとは、一つ一つの音楽行動やその過程の中で生じるものであり、音楽能力を子どもたちが獲得していくための原動力となるものである。

筆者はこれまで継続的に「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて」研究してきた。保育の現場で子どものうたがどのようにうたわれているか実情を知るために2004年度¹⁾・2005年度²⁾の本学紀要において、無作為に抽出した北陸三県(富山県・石川県・福井県)の幼稚園・保育園より50園ずつ計100園に協力を依頼し、一年間(2003年9月から2004年8月)に子どもたちと一緒にうたったうたのリストを作成し、分析・考察することによって保育者養成における子どものうたの指導のあり方や望ましい歌唱教材の方向性を探った。前回の研究は保育者が子どものうたのプレゼンター(Presenter)としての役割である側面から論じたものであった。しかし、保育者はプレゼンターとしての役割ばかりではなく同時に、コーディネーター(Coordinator)であり、ディレクター(Director)であるという側面もある。子どもたちが幼稚園や保育園で新しいうたをうたおうとする時、保育者のうたうという行為の模倣から始まる。子どもは保育者の声、表情、身体、ピアノの音(ピアノ伴奏がある場合)など子どもたちに向き合う保育者の音楽行動から丸ごと身体全身でうたを受け止め、徐々にうたえるようになっていく。

人的環境である保育者の果たす役割は大きい。

そこで、今回の小論では幼稚園での実習を終えた学生に対して2005年度・2006年度に行ったアンケート調査を通して、子どもたちとともに、音楽を自らも楽しむことができる保育者を養成するために必要なことは何かについて論じることとした。

I 研究の方法

〈方法〉「器楽Ⅱ」の授業の中で、教育実習（北陸三県にあるキリスト教保育を行っている幼稚園で3週間）を終えた学生に行ったアンケート調査の結果を基に考察する。

〈対象〉 2005年度2年生 119名（回収率97.5%）
2006年度2年生 103名（回収率96.3%）

〈調査日〉 2005年度

2005年5月31日（5月9日から5月28日 教育実習期間の学生）

2005年6月21日（5月30日から6月18日 教育実習期間の学生）

2006年度

2006年5月31日（5月8日から5月27日 教育実習期間の学生）

2006年6月20日（5月29日から6月17日 教育実習期間の学生）

II 結果と考察

本学における教育実習は、1年次に5日間附属幼稚園で観察実習・参加実習を行う。2年次には附属幼稚園もしくは北陸三県にあるキリスト教保育を行っている幼稚園で3週間観察実習・参加実習・責任実習を行う。今回の調査は2005年度と2006年度に保育学科在籍の2年生を対象とした。

1 「子どものうたを指導しましたか」と質問した結果が表1である。

子どものうたを教育実習で指導した学生は2005年度の調査では全体の約5割であったが、2006年度の調査では約6割と多少だが増加した。指導計画を作成し、指導することによって子どもの姿をじかに知ることができる機会をまだ4割の学生が経験していない。社団法人全国保育士養成協議会専門委員会平成17年度課題研究「保育士養成システムのパラダイム転換—新たな専門職像の視点から—」³⁾の中で保育士に望まれる専門職像として、「成長し続け、組織の一員として協働する、反省的実践家」と提示し、「反省的実践家としての保育士」、「成長し続ける保育士」、「組織の一員としての保育士」という3つの観点から、「望まれる専門職像」としての保育専門職像に論及、その必要性について提言を行っている。その中で、「ふりかえり」は、次の保育につなげていくための過程の一つである。失敗から学ぶということが重要な姿勢である。また、養成校では自分で考えトライし、必ずするであろう失敗から必ず何かを学ぶというスキーマを提供しなければならないと述べている。学生が教育実習期間に行う責任実習は部分実習と一日実習があり、教育実習の後半には学生自らが指導計画を作成し活動することも可能であるので失敗を恐れずに子どものうたの指導をより多くの学生に試みて欲しいものである。

保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (6)

表1 子どものうた指導の有無

	はい		いいえ	
	2005年度	2006年度	2005年度	2006年度
3歳児	18名 (43.9%)	20名 (60.6%)	23名 (56.1%)	13名 (39.4%)
4歳児	16名 (51.6%)	22名 (71.0%)	15名 (48.4%)	9名 (29.0%)
5歳児	22名 (52.4%)	17名 (63.0%)	20名 (47.6%)	10名 (37.0%)
2・3歳児	2名 (100%)	2名 (100%)	0名	0名
2・3・4・5歳児	0名	0名	0名	2名 (100%)
3・4歳児	0名	0名	1名 (100%)	0名
3・5歳児	0名	0名	1名 (100%)	0名
3・4・5歳児	0名	2名 (66.6%)	0名	1名 (33.3%)
4・5歳児	2名 (100%)	1名 (33.3%)	0名	2名 (66.6%)
全体	60名 (50.4%)	64名 (62.1%)	59名 (49.6%)	38名 (37.6%)

2-1 「子どものうたの選曲方法を教えてください」と質問した結果が表2・表3である。

表2 2005年度の選曲方法

園の選曲	自分の選曲	計	人数	3歳児	4歳児	5歳児	2・3歳児	4・5歳児
4曲	1曲	5曲	1名	0名	0名	1名	0名	0名
1曲	1曲	2曲	1名	0名	1名	0名	0名	0名
3曲	0曲	3曲	1名	0名	1名	0名	0名	0名
1曲	0曲	1曲	54名	18名	13名	19名	2名	2名
0曲	1曲	1曲	3名	0名	1名	2名	0名	0名

園の選曲 + 自分の選曲 2名 (3.3%) 園の選曲 55名 (91.7%) 自分の選曲 3名 (5.0%)

表3 2006年度の選曲方法

園の選曲	自分の選曲	計	人数	3歳児	4歳児	5歳児	2・3歳児	3・4・5歳児	4・5歳児
2曲	3曲	5曲	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名
1曲	1曲	2曲	1名	0名	0名	0名	1名	0名	0名
4曲	0曲	4曲	1名	0名	1名	0名	0名	0名	0名
1曲	0曲	1曲	48名	16名	16名	16名	0名	0名	0名
0曲	4曲	4曲	2名	1名	1名	0名	0名	0名	0名
0曲	2曲	2曲	1名	0名	0名	1名	0名	0名	0名
0曲	1曲	1曲	10名	2名	4名	0名	1名	2名	1名

園の選曲 + 自分の選曲 2名 (3.1%) 園の選曲 49名 (76.6%) 自分の選曲 13名 (20.3%)

指導した子どものうたの選曲方法は、①園側から子どものうたの指導が実習課題として出され、曲も指定された「園の選曲」によるもの、②学生が「表現活動の中から実習したいものを選ぶ」という課題で子どものうたの指導に取り組んだケースや自ら子どものうたの指導に積極的に取り組んだケースの「自分の選曲」によるもの、③「園の選曲」で指導したが、思うようにいかず再度挑戦したケースの「園の選曲」+「自分の選曲」によるものの三通りあった。2005年度は95%の学生が「園の選曲」で指導し、曲数は「1曲」であった。ところが、2006年度はもちろん「園の選曲」で指導し、曲数は「1曲」の学生が多かったが、次いで「自分の選曲」で指導し、曲数は「1曲」の学生が20%を占めた。子どものうたの指導に対して相変わらず受動的なかわりをしてきているものの、2006年度は教育実習に行く前に調査について説明を行ったので意欲的に教育実習に臨んだ学生もいたようにデーターから読み取れた。

2-2 「伴奏楽器は何か教えてください」と質問した結果が表4である。

表4 伴奏楽器

クラス	ピアノ		オルガン		鍵盤ハーモニカ		ア・カペラ	
	2005年度	2006年度	2005年度	2006年度	2005年度	2006年度	2005年度	2006年度
3歳児	12名(1) 0名 (72.2%)	11名(2) 1名 (70.0%)	3名 0名 (16.7%)	1名 0名 (5.0%)	0名 0名	1名 0名 (5.0%)	2名 0名 (11.1%)	2名 2名 (20.0%)
4歳児	14名 ^{*1} 1名 (100%)	15名(2) 3名(1) (95.5%)	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 1名 (4.5%)
5歳児	19名(1) 2名 (100%)	12名(3) 0名 (88.2%)	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名	1名 1名 (11.8%)
2・3歳児	1名 0名 (50.0%)	1名 1名 (100%)	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名	1名 0名 (50.0%)	0名 0名
3・4・5歳児	0名 0名	0名 2名 (100%)	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名
4・5歳児	2名 0名 (100%)	0名 0名(1) (100%)	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名	0名 0名
全体	52名(2) (90.0%)	46名(9) (85.9%)	3名 (5.0%)	1名 (1.6%)	0名	1名 (1.6%)	3名 (5.0%)	7名 (10.9%)

()はクラスの先生に弾いていただいたケース。各年齢上段は園の選曲+自分の選曲と園の選曲で指導した場合の伴奏楽器。下段は自分の選曲で指導した場合の伴奏楽器。 ※メロディのみを演奏

保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (6)

使用した楽器はピアノ・オルガン・鍵盤ハーモニカの3種類が挙げられた。ピアノがどの年齢のクラスでも多く用いられており使用率が2005年度では90%、2006年度では約86%であった。なお伴奏楽器がピアノの中にはクラス担当の先生にピアノを弾いていただいたケース(2005年度2ケース、2006年度9ケース)やメロディだけをピアノで弾いたケースも含めた。3歳児や5歳児では楽器を使用しないでうたうア・カペラでの指導もあった。2004年に保育の現場の先生方に実施した同様の調査において、幼稚園では伴奏楽器として各年齢ともに70%の割合でピアノがもっとも多く用いられていた。一方、保育園ではピアノよりも電子ピアノ・電子オルガン・キーボードが多く用いられていた。ピアノの他にはギター・リコーダー・ハーモニカ・鉄琴などが挙げられた。保育士試験の実技試験[音楽]ではピアノの他にギターやアコーディオンを用いて伴奏をするケースも認められているので、学生が教育実習で指導する場合はピアノにこだわらず、得意なものがあれば用いてもよいのではないかと思われる。

2-3「園の選曲した子どものうた指導の自己評価とその理由を教えてください」と質問した結果が表5～表14である。(なお、自己評価は100点法である。伴奏楽器は、ピ…ピアノ、オ…オルガン、鍵…鍵盤ハーモニカ、ア…無伴奏と略して記す)

指導方法 子どもの反応 学生の心情

表5 2005年度3歳児担当学生(曲数13)

曲名	点数	理由	伴奏
あらどこだ	70	いろいろ工夫したが、興味を持続することの難しさを感じた	ピ
ありさんのおはなし	50	緊張して子どもの反応を見るまでには至らなかった	ピ
ありさんのおはなし	50	新しいうたに子どもが興味を示さなかった	ピ
ありさんのおはなし	60	緊張して子どもの反応を見るまでには至らなかった	ピ
おたまじゃくしはなかないね	65	うたうというところまで展開しなかった	ピ
かわいいかくれんぼ	76	楽しくうたうことはできたが、伴奏は保育者に頼んだ	(ピ)
コッポコッポながぐつさん	40	子どもに背を向けて、弾きうたいをしたので集中しなかった	ピ
小鳥のうた	70	緊張して視覚教材が有効に使えなかった	ピ
小鳥のうた	80	自分で作った視覚教材を用いて楽しくうたうことができた	オ
とけいのうた	40	興味を持続できなかった	ピ
とけいのうた	50	興味を持続できなかった	オ
バスごっこ	50	緊張して伴奏楽器の音量まで考えるゆとりがなかった	ピ
ハミング	50	緊張して子どもの反応を見るまでには至らなかった	ピ
ふしぎなポケット	70	視覚教材を用い、子どもの反応を見ながら指導ができた	ピ
ふしぎなポケット	90	パネルシアターに興味を持ち、すぐにうたうことができた	ア
メリーさんのひつじ	60	緊張して子どもの反応を見るまでには至らなかった	オ
山の音楽家	60	伴奏をつけてうたうことを忘れてしまった	ピ
山のワルツ	60	一回の指導だけではうたうところまで指導できなかった	ピ

多保田 治 江

表6 2006年度3歳児担当学生(曲数11) 太字は2005年度もうたわれたもの

曲名	点数	理由	伴奏
雨さんこんにちは	90	ペープサートに興味を持ち、すぐにうたうことができた	ピ
ありさんのおはなし	0	ピアノに必死で子どもを見る余裕がなかった 歌詞や伴奏を間違えた。またフィギアが落ちて焦った	ピ
ありさんのお話	40	緊張して伴奏のピアノが思うように弾けなかった	ピ
おたまじゃくしはなかないね	70	初めて 知ったうたなので指導時に緊張した	(ピ)
おたまじゃくしはなかないね	70	徐々にうたうことができるようになった	ピ
おつかいありさん	80	「いい歌だね」と言い、2・3回でうたうことができた	ピ
小鳥の歌	60	自然に口ずさみ、楽しくうたうことができた	ピ
こぶたぬきつねこ	70	追いかけるうたの誘導ができず、うたわない子どもがいた	鍵
コッポコッポながぐつさん	50	歌詞やメロディを間違えた	ア
せっけんさん	45	範唱の時、テンポが速すぎた	ア
せっけんさん	45	緊張して音程が少々外れてしまった	(ピ)
とけいのうた	30	緊張して伴奏のピアノが思うように弾けなかった	ピ
とけいのうた	80	楽しくうたうことができた	ピ
とけいのうた	65	緊張して伴奏のピアノが思うように弾けなかった	ピ
とけいのうた	60	視覚教材が必要であった	オ
とけいのうた	60	興味や関心を示さなかった	ピ
ピクニックマーチ	30	ピアノに必死で子どもを見る余裕がなかった	ピ
ふしぎなポケット	80	毎日おやつの時間の前にうたうことによってポケットを叩く動作を楽しみ、徐々にうたうことができるようになった	ピ

表7 2005年度4歳児担当学生(曲数12)

曲名	点数	理由	伴奏
ありさんのおはなし	40	興味を持続できなかった	ピ
イエス様がいちばん	80	元気よくうたうことができた	ピ
おつかいありさん	60	緊張して伴奏のピアノが思うように弾けなかった	ピ
おはようクレヨン	60	2・3回うたうとうたうことができた	ピ
おはようクレヨン	90	4コーラスまで子どもはうたうことができるようになった	ピ
気のいいあひる	40	うたの好きな子どもだけがうたった	ピ
コッポコッポながぐつさん	60	ピアノに必死で子どもの状態を把握することは難しかった	ピ
こりすのふうせんりょこう	50	新しいうたは1回の指導ではうたうことができなかった	ピ
サンサンサン	60	緊張して歌詞やメロディを間違えた	ピ
そらでえんそくしてみたい	50	新しいうたは1回の指導ではうたうことができなかった	ピ
そらでえんそくしてみたい	80	楽しくうたうことができた	ピ
たのしいね	90	うたに手拍子も加え、楽しくうたうことができた	ピ
はしれちようとつきゅう	80	楽しくうたうことができた	ピ
はたけのポルカ	50	新しいうたは1回の指導ではうたうことができなかった	ピ
はたけのポルカ	50	緊張して伴奏のピアノが思うように弾けなかった	ピ

保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (6)

曲名	点数	理由	伴奏
はたけのポルカ	60	視覚教材がないと歌詞がわからなくなった	ピ
はたけのポルカ	70	緊張して伴奏のテンポが速くなった	ピ
はたけのポルカ	90	楽しくうたうことができた	ピ

表8 2006年度4歳児担当学生(曲数15) 太字は2005年度もうたわれたもの

曲名	点数	理由	伴奏
あめふりくまのこ	40	緊張して伴奏が思うように弾けなかった	ピ
あめふりくまのこ	50	5コーラスまであり、うたを伝える程度で指導が終わった	ピ
あめふりくまのこ	60	初めてのうたの指導で緊張した	ピ
あめふりくまのこ	60	歌詞の内容を情景が浮かぶように話した方がよかった	(ピ)
あめふりくまのこ	85	1回目は、伴奏つきでうたう所まで進まなかったが、最終日に再チャレンジし、うたうことができるようになった	ピ
大きな古時計	100	範唱をよく聞き、すぐにうたうことができた	ピ
おかあさんだいすき	50	興味や関心を示さなかった	ピ
おなかがへるうた	70	既に知っているうただったので少しもの足りなかった	ピ
おはよう	100	うたい易く、子どもの様子を見ながら伴奏が弾けた	ピ
カスタネット	60	楽しくうたうことができたが、歌詞が明確でなかった	ピ
くじらのとけい	40	興味や関心を持たず、1コーラスもうたうことができなかった	ピ
こりすのふうせんりょこう	70	指導後も口ずさむ子どもがいた	ピ
さよならのうた	100	うたい易く、子どもの様子を見ながら伴奏が弾けた	ピ
そらでえんそくしてみた	80	楽しくうたうことができた	(ピ)
そらでえんそくしてみたい	85	指導法の指定があり、自分で指導計画を立てたかった	ピ
手をたたきましょう	75	徐々にうたうことができるようになった	ピ
ばらばらおちる	100	範唱をよく聞き、すぐにうたうことができた	ピ
ヘイ!タンブリン	60	元気にうたうことができたが、歌詞が明確でなかった	ピ
ぼかぼかてくてく	10	準備不足で明確にうたうことができなかった	ピ
森のくまさん	60	指導の終盤で子どもが飽きた様子だった	ピ

表9 2005年度5歳児担当学生(曲数15)

曲名	点数	理由	伴奏
雨降り水族館	10	興味や関心を示さなかった	ピ
大きな古時計	45	範唱はよかったが、伴奏が思うように弾けなかった	ピ
大きな古時計	65	全部指導しようとして、子どもに「疲れた」と言われた	ピ
大きな古時計	70	授業での学びを生かし、指導を行ったらスムーズにできた	ピ
おなかのとけい	70	一緒にうたう子ども、うたわない子どもがいた	ピ
かっこう	70	伴奏を弾いてうたう予定だったが、うたうだけで終了した	ア
五匹のかえる	70	伴奏を弾いてうたう予定だったが、うたうだけで終了した	ア
五匹のかえる	75	導入はできたが、伴奏が思うように弾けなかった	ピ

多保田 治 江

曲名	点数	理由	伴奏
神さまがつくられた	80	繰り返したう機会を持ち、うたうことができたようになった	ア
世界中のこどもたちが	30	伴奏が思うように弾けなかった	ピ
世界中のこどもたちが	85	元気良くうたうことができた	ピ
となりのトトロ	70	伴奏を弾いてうたう予定だったが、うたうだけで終了した	ア
とんでったバナナ	30	伴奏を弾いてうたう予定だったが、うたうだけで終了した	ピ
とんでったバナナ	40	指導案通りに展開できなかった	ピ
はたけのポルカ	70	緊張して視覚教材の扱いに手間取った	ピ
はたけのポルカ	70	気持ちが焦り、伴奏のテンポが速かった	ピ
ハッピーチルドレン	50	緊張して歌詞を間違えてしまった	ピ
ハッピーチルドレン	65	緊張して子どもの反応を見るまでには至らなかった	ピ
ハミング	50	徐々にうたうことができたようになった	ピ
パレード	60	サビ以外はなかなかうたうことができなかった	ピ
はをみがきましょう	80	楽しくうたうことができた	ピ
ぼくはキャプテン	20	高音の音が小さくなった	ピ
ぼくはキャプテン	66	伴奏が思い通りに弾けた	ピ

表10 2006年度5歳児担当学生(曲数14) 太字は2005年度もうたわれたもの

曲名	点数	理由	伴奏
あめふりくまのこ	50	子どもはうたってくれたが、伴奏を沢山間違えた	ピ
あめふりくまのこ	50	緊張して計画通り指導できなかった	ア
雨降り水族館	60	あがって音程が少々外れてしまった	ア
大きな古時計	60	うたの雰囲気子どもに伝えることは難しかった	ピ
おなかのとけい	80	導入のあそびうたも気に入り、楽しくうたうことができた	ピ
五匹のかえる	30	歌詞やメロディを間違えた	ピ
五匹のかえる	60	歌詞が不明確な部分もあったが、楽しくうたうことができた	(ピ)
そらでえんそくしてみたい	50	歌詞を間違えた	(ピ)
ニヤニヤのてんきよほう	65	すぐにうたえた	ピ
はたけのポルカ	30	緊張して視覚教材を上手く用いられなかった	(ピ)
パタパタママ	30	歌詞やメロディを間違えた	ピ
パレード	90	少々音程を外してしまった	ピ
ぼくがパパになったらね	90	子どもが興味や関心を持ち、すぐにうたうことができた	ピ
ぼくのミックスジュース	50	指導の終盤で子どもが飽きた様子だった	ピ
みどりのマーチ	80	すぐにうたうことができた	ピ
みんな大好き	60	伴奏を弾いてうたう計画だったが、うたうだけで終了した	ピ

保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (6)

表 11 2005年度 2・3歳児担当学生 (曲数2)

曲名	点数	理由	伴奏
ありさんのおはなし	80	パネルシアターに興味を持ち、すぐにうたうことができた	ピ
とけいのうた	30	視覚教材が必要であった	ピ

表 12 2006年度 2・3歳児担当学生 (曲数1)

曲名	点数	理由	伴奏
花の歌	50	緊張してテンポがぐらついてしまった	ピ

表 13 2005年度 4・5歳児担当学生 (曲数2)

曲名	点数	理由	伴奏
くじらの時計	50	緊張して歌詞を間違えてしまった	ピ
だれかがほしをみていた	85	視覚教材に集中し、すぐにうたうことができた	ピ

表 14 自己評価の数値的分析

	3歳児		4歳児		5歳児		2・3歳児	4・5歳児	全体	
	2005	2006	2005	2006	2005	2006	2005	2005	2005	2006
指導方法	61.2	70	47.5	70	61.4	60	30.0	0	50.0	66.7
子どもの反応	70.0	73.3	74.4	69.5	60.0	70.8	80.0	85.0	73.9	71.2
学生の心情	57.1	41.7	60	63.3	54.6	48.8	0	50.0	55.4	51.3
満足度の範囲	40～80	60～80	40～50	50～85	30～80	60		30		
	50～90	60～90	40～90	40～100	10～85	50～90		80	85	
	50～70	0～70	50～70	40～100	30～75	30～90		50	50	

自己評価の理由を「指導方法」、「子どもの反応」、「指導時における学生の心情」の3つのカテゴリーに分類し、考察を行った。3つのカテゴリーの中で「子どもの反応」に関しては2005年度も2006年度も学生の自己評価が高いという同じ傾向を示した。また、2005年度の学生は「指導方法」の自己評価が低く、2006年度の学生は「指導時における学生の心情」の自己評価が低いという異なる傾向を示した。

「子どもの反応」では、パネルシアターやペープサートなど学生が作成した視覚教材に子どもたちが興味を持ったこと、すぐにうたうことができたこと、元気のよい楽しそうな子どもたちの歌声が寄せられたこと、4コーラスまである長いうたでもうたうことができるようになったことに対して自己評価が高かった。

2005年度の学生の「指導方法」についての指摘では、子どもの興味を持続できるような指導計画をまだ立てられないことや初めての子どものうたの指導に対して戸惑う姿がデータから見受けられた。

2006年度の学生の「指導時における学生の心情」では、初めて子どもたちを指導する立場となって緊張し、うたうことや伴奏を弾くこと、視覚教材の使い方が準備の時に比べて思うように

できなかったことに対して自己評価が低かった。

中でも、自己評価の低かった理由は、ピアノに必死で子どもを見る余裕がなく、歌詞や伴奏にも影響したことや子どもが興味や関心をなかなか持ってくれなかったという指摘であった。さて、保育におけるピアノ伴奏について峯陽は「みんなでうたっていて、それに楽器の伴奏が入ると、うたがはずんで、もっと楽しくなるから、伴奏というのです。」⁴⁾と述べているが、ピアノ伴奏のあるべき姿についての的を獲ている。何故ならば、自信をもって伴奏を弾くことができるように準備することが楽しくうたうために欠かせない事柄だからである。しかし、保育者養成においてこの準備についてどのように教授したらよいかは今後の課題である。

2-4「自分の選曲した子どものうた指導の自己評価とその理由を教えてください」と質問した結果が表15～表23ある。(なお、自己評価は100点法である。伴奏楽器は、ピ…ピアノ、オ…オルガン、鍵…鍵盤ハーモニカ、ア…無伴奏と略して記す)

表15 2006年度3歳児担当学生(曲数9)

曲名	点数	理由	伴奏
頭・肩・膝・ポン	45	子どもから「それ嫌い」と言われ、戸惑った	ア
あめふりくまのこ	70	視覚教材の準備が必要であった	ピ
のねずみ	45	子どもから「それ嫌い」と言われ、戸惑った	ア
一本と一本	80	おやつを食べる前で、楽しそうに指を動かしてうたうことができた	ア
糸まきまき	80	楽しそうに手を動かしてうたうことができた	ア
おぼけなんてないさ	70	興味を持ち、楽しくうたうことができた	ア
気のいいあひる	70	新しいうたに対して関心を持ってうたうことができた	ア
キャベツの中から	45	子どもから「それ嫌い」と言われ、戸惑った	ア
わにのうた	80	楽しそうに手を動かしてうたうことができた	ア

表16 2005年度4歳児担当学生(曲数2)

曲名	点数	理由	伴奏
とけいのうた	50	子どもたちが知っているうただったのですぐにうたうことができた	ピ
ともだちになるために	50	指導の終盤で子どもが飽きた様子だった	ピ

表17 2006年度4歳児担当学生(曲数5)

曲名	点数	理由	伴奏
あめふりくまのこ	60	長いうただが、子どもたちは一生懸命うたおうとした	ピ
あめふりくまのこ	70	興味を持ったが、一回の指導ではうたいきれなかった	ア
あめふりくまのこ	70	伴奏が思うように弾けなかった	ピ
ゴロゴロドカーン	90	気に入ってくれ、何度も繰り返しうたった	ア

保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (6)

曲名	点数	理由	伴奏
さかながはねてピョン	90	興味を持ち、すぐにうたうことができた	ア
はしるのだいすき	50	ペープサートに必死になり、歌詞があいまいになった	(ピ)
はしるのだいすき	70	歌声が小さかった	ピ
ボンチョンピン	80	興味を持ち、楽しくうたうことができた	ア

表 18 2005 年度 5 歳児担当学生 (曲数 3)

曲名	点数	理由	伴奏
すてきなパパ	60	緊張して伴奏が思うように弾けなかった	ピ
世界中の子どもたちが	89	繰り返しうたう機会を持ち、うたうことができるようになった	ア
はたけのポルカ	85	視覚教材に集中し、次第にうたうことができるようになった	ピ

表 19 2006 年度 5 歳児担当学生 (曲数 2)

曲名	点数	理由	伴奏
アイスクリームのうた	30	緊張して歌詞を間違えた	ア
あめふりくまのこ	40	緊張して歌詞を間違えた	ア

表 20 2006 年度 2・3 歳児担当学生 (曲数 2)

曲名	点数	理由	伴奏
あめふりくまのこ	50	緊張して途中でピアノが止まってしまった	ピ
おはながわらった	70	知っているうただったので、すぐにうたうことができた	ピ

表 21 2006 年度 3・4・5 歳児担当学生 (曲数 2)

曲名	点数	理由	伴奏
あめふりくまのこ	85	手作り紙芝居に興味を持ち、うたも元気にうたうことができた	ピ
おはながわらった	70	知っているうただったので、すぐにうたうことができた	ピ

表 22 2006 年度 4・5 歳児担当学生 (曲数 1)

曲名	点数	理由	伴奏
ありさんのおはなし	60	パネルシアターには興味を持ったが、歌声は小さかった	(ピ)

表23 自己評価の数値的分析

	3歳児	4歳児		5歳児		2・3歳児	3・4・5歳児	4・5歳児	全 体	
	2006	2005	2006	2005	2006	2006	2006	2006	2005	2006
指導方法	70	0	70	89	0	0	0	0	89	70
子どもの反応	76	50	78	85	0	70	77.5	60	67.5	72.3
学生の心情	45	0	60	60	35	50	0	0	60	47.5

70
70～80 50 70 89
60～90 85 70 70～85 60
45 50～70 60 30～40 50

2005年度は「自分の選曲」で指導した学生は3名のみだったが、2006年度は13名に増えた。2005年度も2006年度も「指導時における学生の心情」の自己評価が低かった。この結果は「園の選曲」で指導した場合と同じ傾向であった。また、予測しない咄嗟の子どもの発言に心理的に動揺を起こすケースが見られた。子どもたちと信頼関係を築くことは子どものうたの指導を円滑に進め、楽しくうたうために不可欠なことである。

2-5子どものうたの指導を希望した理由は次の通りであった。(複数回答)

2005年度 7名うたうことが得意2名 ピアノが得意0名 子どもの姿を知りたい5名

2006年度 14名うたうことが得意1名 ピアノが得意0名 子どもの姿を知りたい11名

その他

- ・園の選曲で指導した時思うように指導できなかつたので半日や終日実習に組み入れた1名
- ・子どもがおばけごっこを行っていたので「おばけなんてないさ」をうたいたかつた1名

子どもたちが楽しくうたうためには、子どもたちのことをよく知らなければならない。「子どもがおばけごっこを行っていたので「おばけなんてないさ」をうたいたかつた」というコメントは選曲理由の本質を突いている。

3「子どものうたを指導してどのように思いましたか」と質問した結果が表24である。

表24 子どものうたの指導感想 上段 2005年度 下段 2006年度

感 想	計	3歳児	4歳児	5歳児	4・5歳児	3・4・5歳児	2・3歳児
緊張した。指導することは難しかった	18名	4名	6名	7名	1名	0名	0名
	17名	5名	5名	6名	1名	0名	0名
指導法に工夫があると子どもは興味津々であった(視覚教材の使い方、ことばかけ)	7名	1名	2名	2名	1名	0名	1名
	19名	5名	4名	8名	0名	1名	1名
すぐにうたを覚え、とても楽しそうにうたった	8名	2名	1名	5名	0名	0名	0名
	9名	4名	4名	0名	0名	1名	0名

保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (6)

感想	計	3歳児	4歳児	5歳児	4・5歳児	3・4・5歳児	2・3歳児
指導する以上、歌うことに責任を持たなければならない	3名	2名	0名	0名	0名	0名	1名
	7名	1名	6名	0名	0名	0名	0名
初めての指導で難しい面もあったが、楽しかった	4名	2名	0名	1名	1名	0名	0名
	4名	0名	2名	1名	0名	1名	0名
1回で一曲を指導することは難しいので、継続的指導が必要だ	1名	0名	0名	1名	0名	0名	0名
	5名	1名	2名	2名	0名	0名	0名
臨機応変な姿勢が大切だ (指導計画通りにならない)	2名	1名	1名	0名	0名	0名	0名
	3名	1名	2名	0名	0名	0名	0名
子どもをよく知ることが大切だ (興味あるものを知ること)	3名	2名	0名	1名	0名	0名	0名
	1名	0名	1名	0名	0名	0名	0名
指導者がうたを楽しむことが大切だ	3名	2名	0名	1名	0名	0名	0名
	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名
子どもの状態を見ながら、弾きうたいすることは難しかった	3名	1名	1名	1名	0名	0名	0名
	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名
子どもはうたうことが好きなので、うたうことは保育の中でも取り組みやすい活動だ	2名	0名	1名	1名	0名	0名	0名
	3名	1名	1名	0名	0名	1名	0名
子どもとうたうことは楽しかった。 一体感を感じた	4名	1名	0名	3名	0名	0名	0名
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
指導者の口元をよく見ていた	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	4名	2名	1名	1名	0名	0名	0名
子どもは新しいうたに対して一生懸命うたおうとした	2名	1名	0名	1名	0名	0名	0名
	1名	0名	1名	0名	0名	0名	0名
うたによって反応が異なり、既知のうたは楽しそうにうたった	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	3名	0名	1名	2名	0名	0名	0名
指導時間が長いと飽きた	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	2名	0名	0名	2名	0名	0名	0名
繰り返しの部分はすぐにうたえた	1名	0名	1名	0名	0名	0名	0名
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
伴奏は止まってはいけない	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
うたうことに対して積極的な子どもと消極的な子どもがいた	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名
子どものうたはメッセージを伝えることができた	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名
うたう時に、子どもは目をキラキラさせた	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	1名	0名	0名	0名	0名	1名	0名

もっとも多かった回答は、「緊張した。指導することは難しかった」であった。1回の指導では緊張感だけで責任時間が終了しているように思われる。しかし、このままで終わるのではなく「ふ

りかえり」を行うことによって足りない面を見つけることができれば、子どもたちとともに音楽を自ら楽しむことができる保育者として成長していくと思われる。

次いで「指導方法に工夫があると子どもたちは興味津々であった」という回答が多かった。音楽的な面ばかりでなく視覚教材を用いることやことばかけもうたの指導を円滑に進め、楽しくうたうために不可欠なことである。

3位は「すぐにうたを覚え、とても楽しそうにうたった」であった。この感想は子どもたちと一緒にうたうための準備をし、楽しいひと時を過ごせた学生からの回答であった。

4位の「指導する以上、うたうことに責任を持たなければならない」という指摘は今後の指導のための準備にもつながる回答であった。

4「子どもの歌声を聞いてどう思いましたか」と質問した結果が表25～表27である。

子どもの歌声の感想

表25 うたい方について 上段 2005年度 下段 2006年度

	計	3歳児	4歳児	5歳児	3・4歳児	4・5歳児	3・4・5歳児	2・3歳児
元気のよい楽しそうな歌声だった (特に得意なうた、繰り返しや擬音の箇所、表情も笑顔、全身でうたう)	84名	31名	21名	30名	0名	2名	0名	0名
	35名	9名	15名	9名	0名	0名	2名	0名
素直で明るい歌声だった	22名	6名	9名	7名	0名	0名	0名	0名
	8名	4名	2名	2名	0名	0名	0名	0名
怒鳴るようにうたう子どもがいた (飽きると怒鳴る)	19名	6名	5名	7名	1名	0名	0名	0名
	6名	2名	1名	2名	0名	0名	0名	1名
一生懸命うたおうとする姿勢が伝わった	12名	5名	2名	4名	1名	0名	0名	0名
	4名	2名	1名	1名	0名	0名	0名	0名
範唱でメロディをすぐにうたうことは驚くべきことだ	12名	1名	6名	5名	0名	0名	0名	0名
	2名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名
うたい始めは歌声が小さかった。恥ずかしそうな歌声だった(指導の初回、男子)	2名	1名	0名	1名	0名	0名	0名	0名
	9名	3名	6名	0名	0名	0名	0名	0名
子どもによってうたい方に違いがあった(うたうことの好きな子どもは大きな歌声、苦手な子どもは小さな歌声、すぐにうたう子どもとそうでない子ども)	4名	2名	0名	2名	0名	0名	0名	0名
	5名	2名	3名	0名	0名	0名	0名	0名
元気な声と美しい声の違いも分かってうたっていた	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	2名	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名
5歳児はメロディ・リズムとも明確にうたえた	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	2名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名
独唱ができる子どもがいた	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (6)

	計	3歳児	4歳児	5歳児	3・4歳児	4・5歳児	3・4・5歳児	2・3歳児
3歳児は歌詞が明確であった	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
3歳児は歌詞が明確でない部分もあった	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
気分によってうたい方が変わった	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

表26 保育者や実習生と子どもとの関係 上段 2005年度 下段 2006年度

	計	3歳児	4歳児	5歳児	3・4歳児	4・5歳児	3・4・5歳児	2・3歳児
子どもたちの歌声に元気をもたらした	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	6名	3名	3名	0名	0名	0名	0名	0名
指導したうたをうたってくれて嬉しかった	2名	0名	1名	0名	0名	1名	0名	0名
	2名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名
子どもたちの歌声に支えられて楽しく伴奏が弾けた	3名	1名	0名	2名	0名	0名	0名	0名
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
範唱で子どもはうたを知るので保育者の役割は大きい	2名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名
	2名	0名	1名	1名	0名	0名	0名	0名
保育者のうたい方そっくりであった	2名	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

表27 うたの好みについて 上段 2005年度 下段 2006年度

	計	3歳児	4歳児	5歳児	3・4歳児	4・5歳児	3・4・5歳児	2・3歳児
元気でリズムカルなうたを好む	1名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

おわりに

今回行った2年間のアンケート調査を通して、音楽を自らも楽しむことができる保育者を養成するために筆者が提案したい事は以下の2点である。

第1は、子どものうたを指導するための準備についてカリキュラムに盛り込むことである。初めて子どものうたを指導することはどの学生もが緊張すると思われる。その時に生ずることがうたうことや伴奏を間違えてしまうことであった。音楽を楽しむためには「さまたげ」となるものを取り除く必要がある。自信をもって子どものうたをうたうことができ、自信をもって子どものうたの伴奏を弾くことができる学生を養成したい。

第2は、教育実習において子どものうたの指導を試みるように学生に勧めることである。「ふりかえり」は、次の保育につなげていくための過程の一つで重要な姿勢であるからである。自分自身の問題点に気づき、ふりかえることができたことで保育者としての資質向上につなげていけ

多保田 治 江

るように学生を促していきたい。そのためには、教育実習の事後指導が必要である。

今後も保育者養成における子どものうたの取り扱いについて研究を続けていきたいと考えている。

引用・参考文献

- 1) 多保田治江「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (4)」『北陸学院短期大学紀要』第36号 2004年 p.13-28
- 2) 多保田治江「保育者養成における子どものうたの取り扱いについて (5)」『北陸学院短期大学紀要』第37号 2005年 p.1-12
- 3) 社団法人 全国保育士養成協議会専門委員会編著『保育士養成資料集』第44号 全国保育士養成協議会 2006年 p.137-138
- 4) 峯陽『保育のための音楽入門—うたいたくなる子育てを—』青木書店 1981年 p.119-120